



大木町がめざす
循環のまちづくり

循環のまちをつくる取組み



■ ゴミを出さない(ゼロウェイスト)まちづくり

■ バイオマスの利活用

- 05年2月にバイオマスタウンに認定される。
 - 生ごみ・し尿・浄化槽汚泥をエネルギーと有機肥料に ～大木町有機資源循環事業、
 - 廃食用油が軽油代替燃料(BDF)に
～菜の花プロジェクト



■ 自然エネルギーの普及

■ 太陽光発電の普及

- 地域共同発電所(アクアス・くるるん)の設立
- 町内の小学校全校に太陽光発電設備を設置
- 家庭用太陽光発電設置補助の実施(平成14年～)
 - 家庭用太陽光発電設置世帯数は約4%。



■ 省エネルギー、太陽熱利用の推進

- 太陽熱利用設備補助(10分の1以内2万円上限)
- 省エネ授業・我が家の暮らし応援隊事業



環をつなぐ地域社会システム



生ゴミの分別
家庭の台所・学校給
食で生ゴミを分別



し尿・浄化
槽汚泥

食

環境

循環

農

地元農産物の供給
バイオガス液肥や堆
肥を使った農産物を
給食や家庭の台所へ

発酵させ液肥化
バイオガスプラントで
発酵させ、バイオガス
と有機液肥を回収

液肥の農地還元
バイオガス液肥を
有機質肥料として
農地へ返す

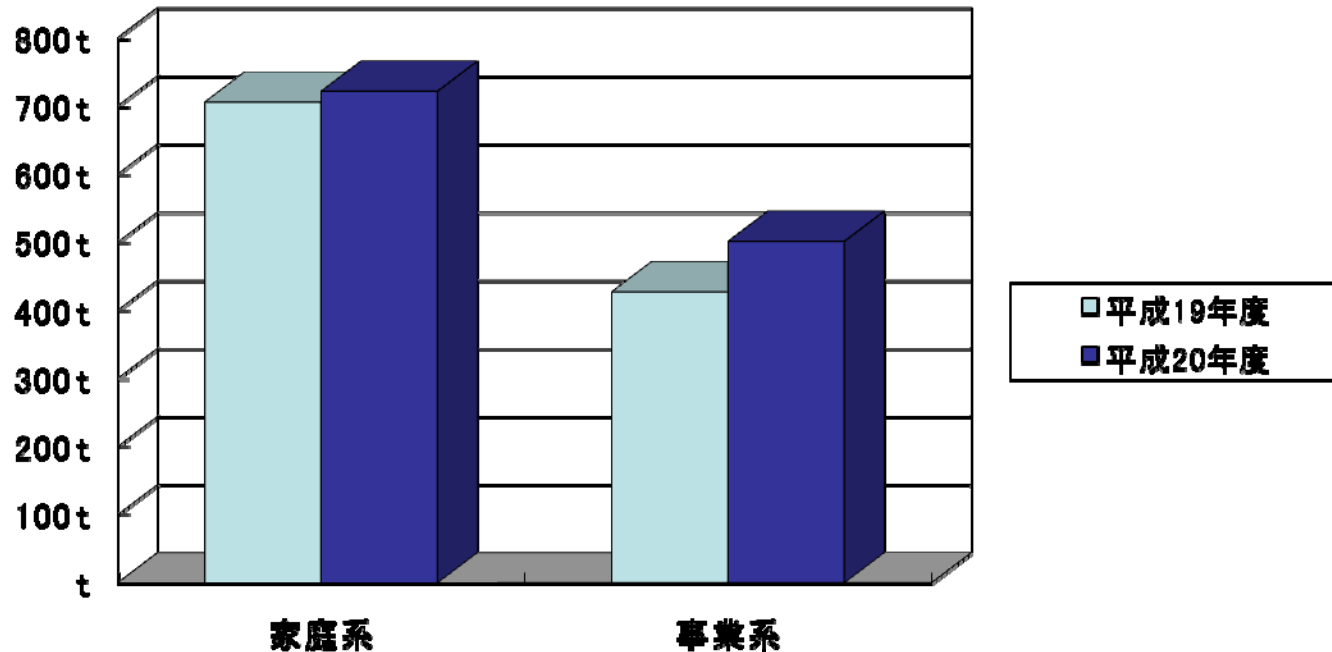


生ごみ・し尿・浄化槽汚泥を地域資源として循環活用するためには、地域循環を支える社会システムの確立が欠かせない。

生ごみの分別で燃やすごみが44%減る！

年	月	家庭の 生ごみ	事業系 生ごみ	生ごみ 合計	燃やすごみ の量	H.17年度の 燃やすごみ	H. 17年度比
		t	t	t	t	t	%
H20	4月	58.5	41.1	99.6	154.7	264.2	58.6
	5月	60.6	50.3	110.9	154.9	262.3	59.1
	6月	56.9	40.6	97.5	133.4	247.9	53.8
	7月	63.3	40.5	103.8	154.8	252.0	61.4
	8月	69.2	40.6	109.8	133.0	276.3	48.1
	9月	58.2	46.1	104.3	137.0	254.7	53.8
	10月	59.9	46.7	106.6	146.8	240.9	60.9
	11月	55.1	42.1	97.2	123.5	239.4	51.6
	12月	63.7	43.2	106.9	151.9	258.7	58.7
H21	1月	61.8	38.9	100.7	140.4	248.1	56.6
	2月	54.8	35.8	90.6	116.3	215	54.1
	3月	59.4	35.3	94.7	141.9	245.5	57.8
合 計		721.4	501.2	1222.6	1688.6	3005.0	56.2

H. 20の生ごみ分別収集状況



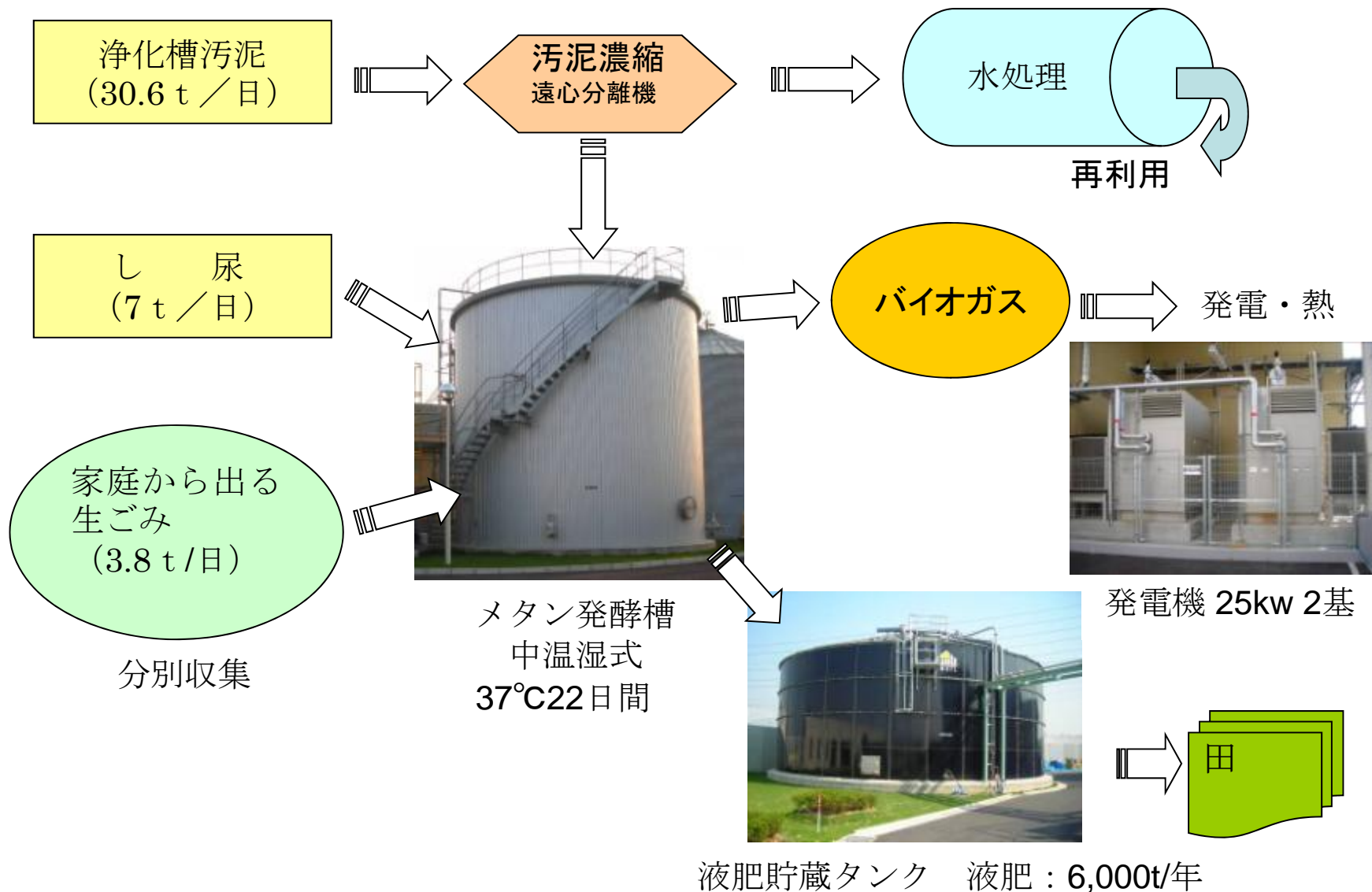
平成19年度家庭系 705.7t → 平成20年度家庭系 721.4t(102.2%)

平成19年度事業系 427.2t → 平成20年度事業系 501.2t(117.3%)

異物混入率(バケツ数)

平成19年度 平均 2.97% → 平成20年度 平均 0.86%

バイオガスシステムのフロー



バイオガス液肥 (くるっ肥)を活用する

- 年間約6000tの液肥を生産
 - 水稻・麦など土地利用型の作物に使用。
 - 水稻・麦 5t~7t/10a
 - 散布面積 それぞれ約50h
 - 液肥散布車や流し肥え方式による散布
- 普通肥料登録として認可
- 液肥代=無料
- 散布料 1000円/10a
(当面は農家との共同研究)
- 液肥利用の課題
 - 貯留と運搬・施肥方法の検討
 - 成分調整と栽培技術(施肥基準など)の確立
 - 臭いはあまり気にならない



分析項目	含有量
リン酸	0.12%
カリ全量	0.11%
全窒素	0.25%
アンモニア態窒素	0.13%

おおき循環センター完成時イメージ図

グランドオープン：平成22年4月



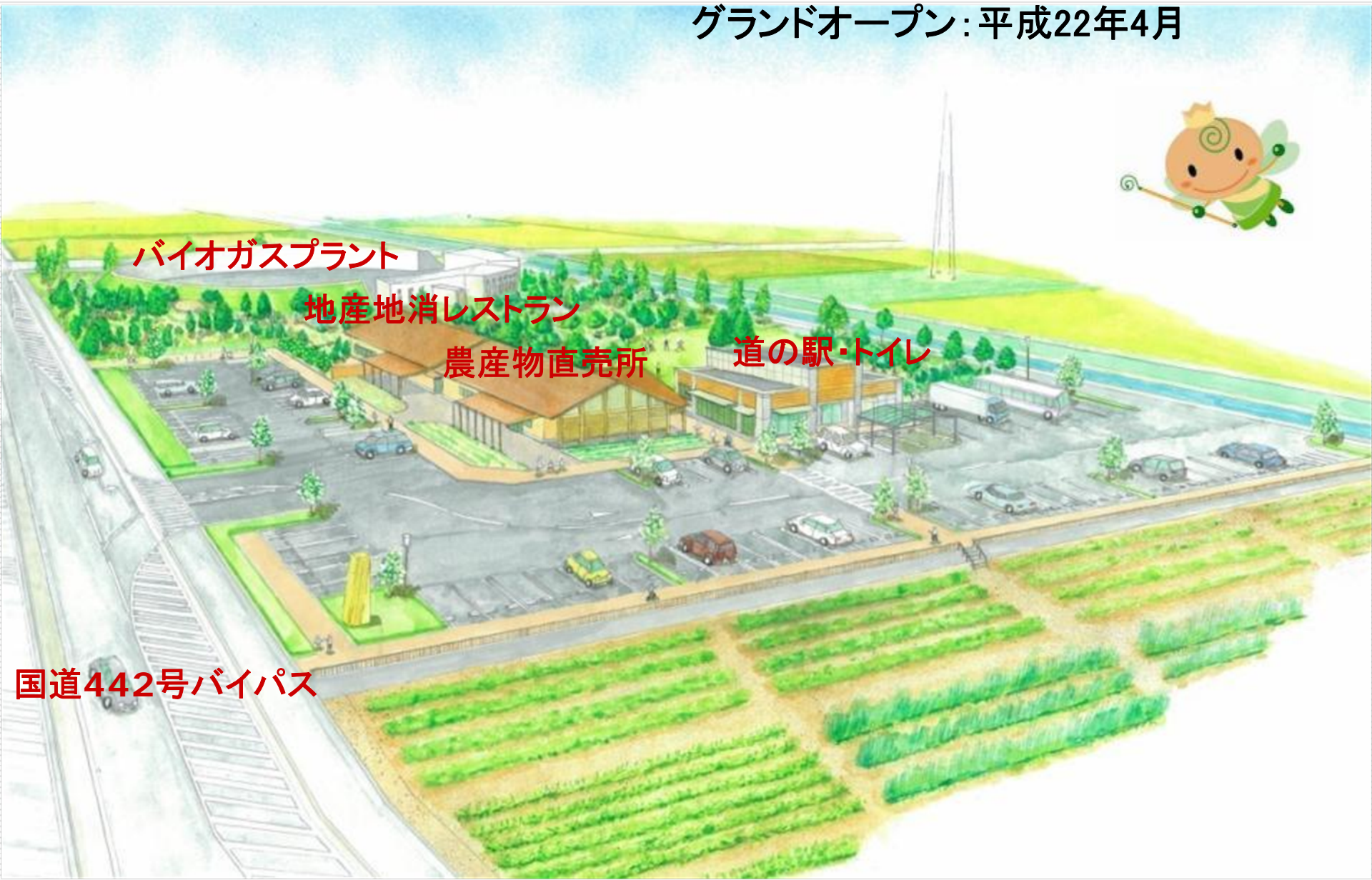
バイオガスプラント

地産地消レストラン

農産物直売所

道の駅・トイレ

国道442号バイパス



おおき循環センター整備事業

- 整備期間 平成17年度～平成21年度(5年間)
- 総事業費 約11億円
(バイオマスの環づくり交付金 補助率2分の1
町負担分の一部起債・交付税措置あり)
- 事業の内訳
 - 第一期工事(平成17年度～平成18年度)
 - メタン発酵施設(施工、(株)三井造船) 5億1966万円
 - 管理学習施設、バイオの丘(施工、(株)熊丸組) 1億8165万円
 - 外部施設・関連設備など
 - 外部液肥タンク、車庫 約7800万円
 - 液肥散布車両・運搬車両他 約4000万円
 - 第二期工事(平成20年度～平成21年度)
 - 農産物直売所・郷土料理レストラン・交流広場など 約1億9千万円

一般の処理施設に比べて1/3～1/4の建設費

バイオマス資源化による処理費削減効果

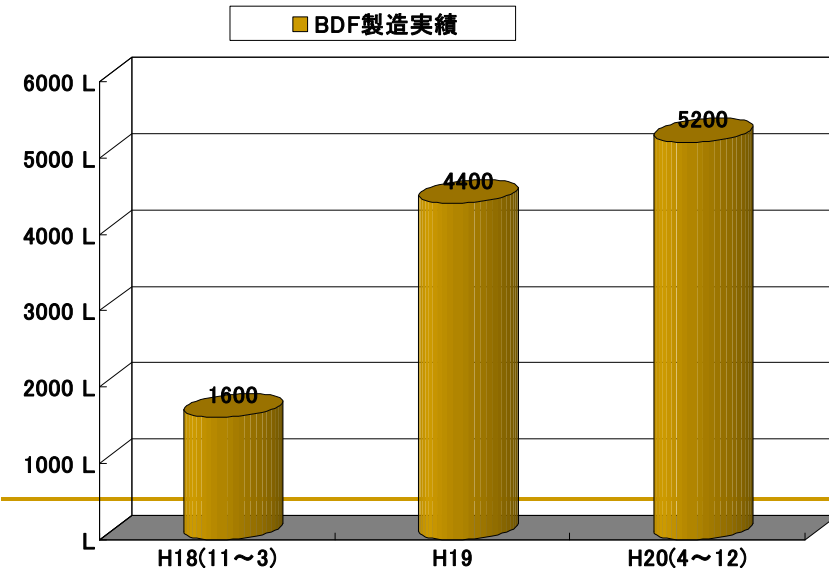
	平成17年度		平成20年度		備考
	処理量(t)	負担額(円)	処理量(t)	負担額(円)	
燃やすごみ焼却	3,005	86,457,000	1,689	53,438,000	大川清掃センター
収集		33,576,638		31,680,000	立花商事(H. 17 2回/週 H. 20 1回/週)
し尿等海洋投棄	9,448	64,009,628			福環連へ委託
ごみ処理計	12,453	184,043,266		85,118,000	
生ごみ資源化			1,223	63,753,000	おおき循環センター 生ごみ収集費含む
し尿等資源化			9,946		
資源化計		0		63,753,000	
合計	12,453	184,043,266	12,857	148,871,000	
バイオマス資源化による処理費削減額					35,172,266

処理単価により算出した処理費削減額 41,142,994円

大木町菜の花プロジェクト

完全無添加菜種油「環のかおり」

- 「大木町菜の花プロジェクト」から生まれた大木町の新しい顔
- 大木町産菜種100%使用
- 昔ながらの圧搾法で搾油
- 完全無添加
- 安全で香り高い菜種油
- 定価 720ml 1300円



● 大木町もったいない宣言 ●

(ゼロ・ウェイスト宣言)

子どもたちの未来が危ない。

地球温暖化による気候変動は、100年後の人類の存在を脅かすほど深刻さを増しています。その原因が人間の活動や大量に資源を消費する社会にあることは明らかです。

私たちは、無駄の多い暮らしを見直し、これ以上子どもたちに「つけ」を残さない町を作ることを決意し、「大木町もったいない宣言」をここに公表します。

- 1、先人の暮らしの知恵に学び、「もったいない」の心を育て、無駄のない町の暮らしを創造します。
- 2、もともとは貴重な資源である「ごみ」の再資源化を進め、2016年(平成28年)度までに、「ごみ」の焼却・埋立て処分をしない町を目指します。
- 3、大木町は、地球上の小さな小さな町ではありますが、地球の一員としての志を持ち、同じ志を持つ世界中の人々と手をつなぎ、持続可能なまちづくりを進めます。

以上宣言します。

2008年3月11日 大木町議会議決

大木町ごみ処理量と数値目標

ごみ処理量と 数値目標	燃やすごみ			燃えないごみ		ごみ計
	家庭	事業所	粗大	家庭	事業所	
2005年度処理量 (基準年)	2241t	710t	54t	93t	3t	3101t
2007年度処理量	1267t ▼44%	351t ▼51%	35t ▼35%	59t ▼37%	1t ▼67%	1733t ▼44%
2008年度処理量	1231t ▼44%	414t ▼42%	43t ▼20%	11t ▼88%	1t ▼67%	1700t ▼45%
(参考) 2007年度目標	1500t ▼33%	360t ▼49%	52t ▼4%	70t ▼25%	3t 0%	1985t ▼36%
(参考) 2009年度目標	730t ▼67%	100t ▼86%	38t ▼30%	60t ▼35%	2t ▼33%	930t ▼70%

※2007年度、2009年度数値目標は2006年度に設定。%は2005年度との比較

第18回環境自治体会議ちっご会議のご案内

日時: 2010年(平成22年)5月26日(水)~28日(金)の3日間、

場所: 大木町、筑後市、大川市

主催: 第18回環境自治体会議ちっご会議実行委員会

事務局: 大木町環境課(おおき循環センター内)

電話 0944-33-1231 Fax 0944-33-1232

メール ooki-junkan@earth.ocn.ne.jp

持続可能な地域づくりを目指した社会システムや技術交流などを主なテーマや分科会テーマとして予定しています。是非ご参加ください。

環境自治体会議全国大会とは

全国の自治体関係者や環境団体、研究者、環境に関心のある市民などが一堂に集い、環境政策に関する情報交換・交流を行います。環境を軸に自治体・NPOなどの団体、企業・研究者、市民が一堂に集う大会としては、最大規模の集会となります。





おおき循環センター くるるん

ホームページアドレス

<http://kururun.jp>

E - メール

ooki-jinkan@earth.ocn.ne.jp